

平成27年6月 データから見た業界の動き

■ 概 況

6月の景況は、円安による原材料の高騰や燃料価格の上昇、公共工事の減少などに加え、天候不順による食品等の値上がりもあり景気は停滞感が強まった。

また、製造業や建設業においては技術者等の人材不足も依然として解消できないため、受注機会を逃がしているケースも出ている。

一方、昨年秋以降の訪日外国人旅行客の急増に伴い山梨県内の宿泊業や観光関連業界の景気は改善傾向にあることが伺える。

その他、全般的には景況感は改善しているものの、同じ業界内においても技術、サービス、取引先等によって景気回復の格差拡大が懸念される状況である。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調だが、生食材や新商品が好調のため全体の売上は前年同月比103%。原料高が続いているが、値上げ効果もあり利益は改善傾向にある。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の国内向けは横ばいだが、台湾輸出が好調。売上は前年同月比107%。しかし、チョコレート、バター等の原料高が続いており採算は厳しい状況。
食料品（菓子）	売上は、前年同月比2割増。
繊維・同製品（織物）	裏地、雑貨物は前年並み、ネクタイは秋冬物の受注が始まった。座布団、服地は、前年度対比1割増。
窯業・土石（砂利）	山梨県関係の土木工事の発注が遅れているため在庫が増加。
窯業・土石（山砕石）	売上は前年対比10%減少。地域主体の産業のため全国的には経済状況が好転しているようだが、地方にまでは波及効果はない。
鉄鋼・金属	予想範囲内で推移しているが、先行き不透明。
一般機器	半導体関連・自動車関連は前年より仕事量は増加傾向にあるが、大手メーカーの海外生産が進み国内生産の仕事量が減少傾向にあるため景気回復感はない。
電気機器	物量の変動が激しく短納期及び安価なコストでの受注のため、人件費や原材料等の費用が割高となり物量が集中しても利益が出ない。また、同業種間で地域格差が広がっている。
宝飾（研磨）	素材を海外に依存しているため、円安によるコスト増となった。

● 非製造業

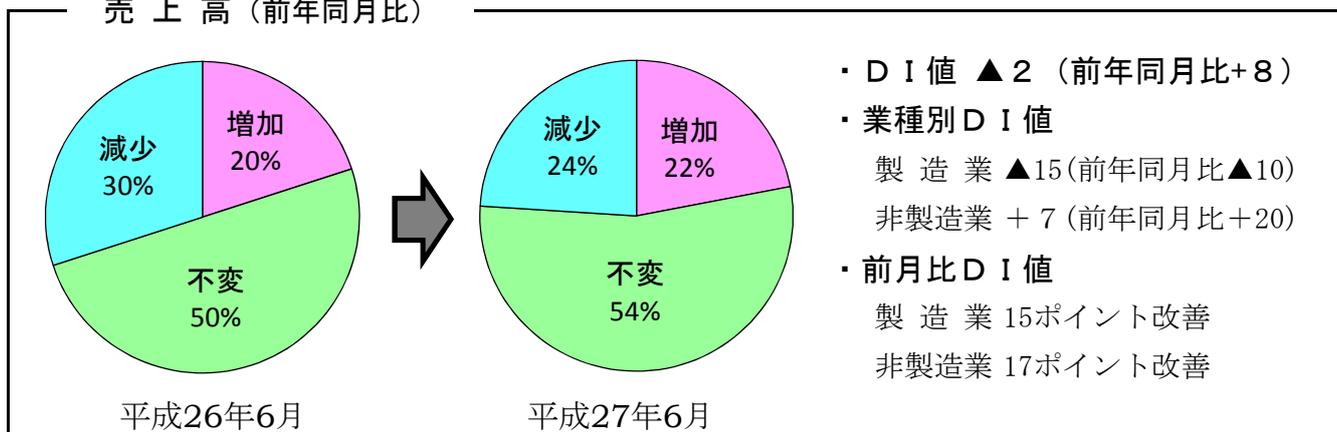
卸売（ジュエリー）	国内流通は、悪化傾向。
小売（青果）	九州方面の天候不順により葉物類や玉葱、じゃが芋等は入荷量減に伴い高値となり販売価格が上昇傾向にあり、売上は前年同月比6%増。
小売（食肉）	生産頭数の減少や円安の影響もあり国内の豚肉、牛肉の相場が高値安定の状態。販売価格を多少値上げしても追いつかない状況にある。
小売（電機製品）	売上は地域・量販店とも約2割減。特に、天候不順によりエアコンの売上が大幅に減少。
小売（事務機文具）	路面店（小売）を中心とした組合員企業は廃業傾向にある。
小売（石油）	人口減に加え省エネ車の増加によりガソリン等の販売量が減少傾向にある。石油卸価格は上昇傾向にあるが、販売価格に転嫁できず利益の減少となった。
不動産取引	東京から物件買い取りの依頼が多い。
宿泊業（甲府）	景気が改善傾向にある。一部のホテルでは、宿泊代を見直し始めた。しかし、不規則な就労時間のため慢性的に人手不足に陥っている。
美容業	消費者の節約志向から低料金店舗が増加している。また、カットやヘアカラー等の低単価の施術のため、利益確保が難しい。
警備業	組合へ未加入の業者による低価格競争が散見され、対応に苦慮している。
建設業（総合）	前払金保証から見た6月の県内公共工事動向によると、前年同月比、件数で1.9%、請負金額で5.7%減少。
建設業（住宅関連）	受注が順調で、特に大工職人の確保が厳しい。
建設業（鉄構）	稼働率が上昇傾向にあるが、首都圏を中心とした県外の物件である。
設備工事（電気工事）	業界全体的に工事件数が減少しているため、技術力や営業力のある企業との格差が広がっている。
設備工事（管設備）	アパート等賃貸物件の増加により売上は、前年同月比26.7%増。円安による原材料高や技術者の不足等による人件費の増加により販売価格は上昇傾向にある。
運輸（タクシー）	月初めは、南関東高校総体があり微増したが月後半は需要減となった。
運輸（トラック）	天候不順により農産物の出荷量が減少し運送に影響がでている。物価が上昇傾向にあるが運賃は上がらない。また、労働時間の規制も厳しく稼働率が低下しているため、今後更に経営が厳しくなると予測する。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

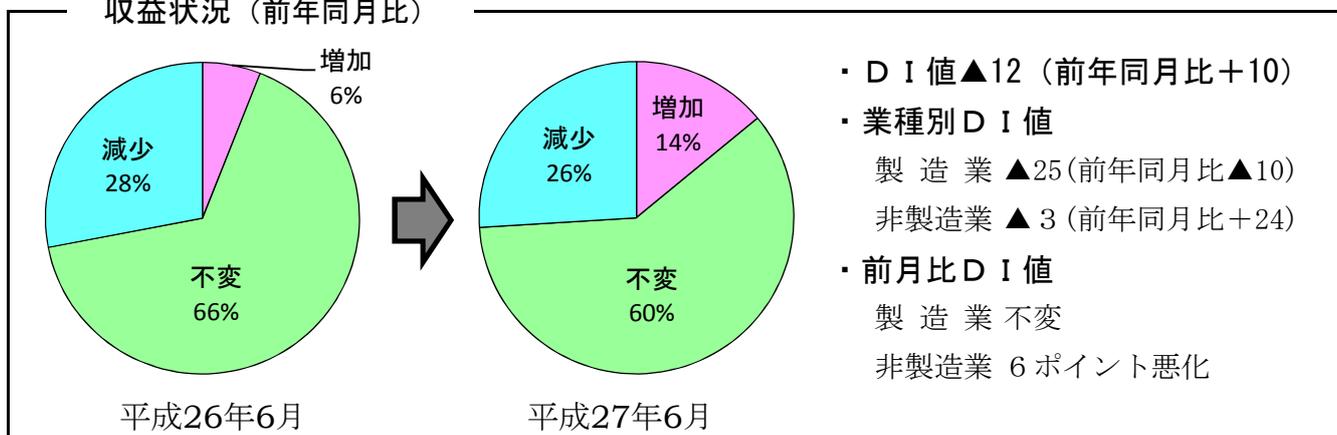
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2014/6	2015/5	2015/6	2014/6	2015/5	2015/6	2014/6	2015/5	2015/6
売 上 高	-5	-30	-15	-13	-10	7	-10	-18	-2
収 益 状 況	-15	-25	-25	-27	3	-3	-22	-8	-12
景 況 感	-15	-20	-15	-17	-20	-17	-16	-20	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

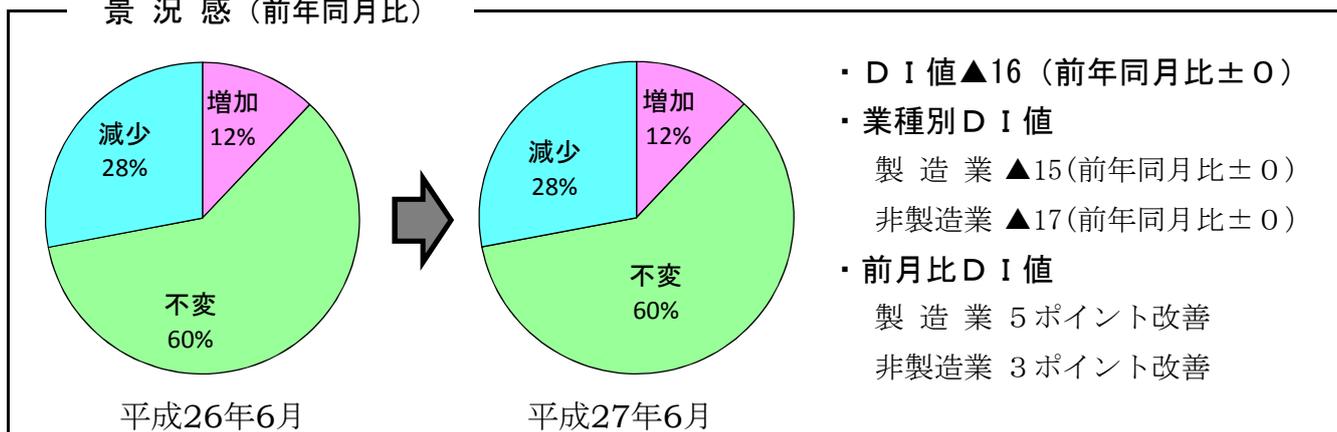
売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）



昨年対比グラフ

売上高

	増加	不変	減少
平成26年6月	20%	50%	30%
平成27年6月	22%	54%	24%

収益状況

増加	不変	減少
6%	66%	28%
増加	不変	減少
14%	60%	26%

景況感

増加	不変	減少
12%	60%	28%
増加	不変	減少
12%	60%	28%